

第3回 環境情報と企業価値に関する検討会

事例整理の考え方 （「時間軸」の視点を中心に）

2017/10/17

事例整理の考え方(「時間軸」の視点を中心に)

- 時間軸と企業価値との関連性等について、リスク・機会1(将来の企業価値を損なわないため対応すべき事項)と、リスク・機会2(戦略的な環境対応による将来価値創造／非対応は事業機会の喪失という事項)の考え方をもとに、マトリクスのかたちで表現し、事例につなげる。

時間軸に基づく投資家目線の整理

- 環境問題には、汚染除去費用や災害等、短期間でリスクが顕在化するものもあれば、温暖化のようにリスク顕在化まで長い時間がかかるものもある。環境情報では、両方を見る必要がある。
- 環境問題の深刻化により、事業基盤となる社会資本、自然資本を損なう可能性がある。そのような間接的・波及的影響の可能性に目を向ける必要がある。

企業価値の維持・向上にとっての重要性

- 短期の環境課題は、短期間で財務状況に影響が生じることが確実、あるいは生じる可能性がある。一方、中長期の環境課題は、中長期の財務状況に影響が生じる可能性がある。
- 短期的にはコストに見える環境対応も、中長期的な価値創造・向上につながる転じる可能性を期待/予測する中長期的な視点が重要である。
- 社会資本、自然資本、人的資本等のストック価値創造/喪失にも目を向ける必要がある。
- 環境リスク対応とリターンの関係には、財務へのマイナス影響回避(リスク・機会1)と積極的な環境対応によるプラスの財務影響創出(非対応は事業機会喪失)(リスク・機会2)がある。

企業のビジネスモデル等を巡る外部環境の変化

- 典型的な環境リスクドライバー
 - 税制や規制等の政策動向
 - 天然資源の入手可能性
 - 自然環境条件
 - サプライチェーン特性等

具体的な企業行動事例(経営戦略等)

- 環境イベントには過去の傾向から影響を想定しきれない場合もある。企業のプロアクティブな対応の見極めが重要になる。

